

座長のまとめ

研究発表座長をつとめて

墨 屋 由紀枝

(金沢赤十字病院)

第19回石川看護研究会学術集会におきまして研究発表座長をつとめさせていただきました。また、今回は会発足20周年ということで、この記念すべき年にこのような役割を担当させて頂いたことを光栄に思います。今回は5題の発表でしたが幅広い分野からの発表で、いずれも現場での問題に率直に取り組んだものでした。

第1席、石川県立高松病院の竹内陽子さんの発表では、日常業務の中で業務改善に対する意気込みや実施の際にスタッフが主体的に取り組むにあたっての問題点について研究されたものでした。かかわるスタッフがどのような心理で取り組んでいるのか、その要因を分析されていました。業務改善というまでもなく患者さまへのより良い看護を遂行するために行われるものですが、それが常にスムーズに行われるとは限らないのが現状です。今回の分析で明確になった要因を活用し、今後の現場の中でスタッフが一丸となってスムーズな業務改善の取り組みに繋がることを期待します。

第2席、金沢医科大学病院の本田真理子さんの発表では、外来で化学療法を受けている患者さまの不安についての研究でした。患者さまの率直な声から具体的な不安の内容について調査されたことで、質問についても患者の会についてや経済的なことでの不安についてと具体的な内容が出されました。特に看護師に求めている事に関しては今回対象の患者さまのみならず、どの患者さまにも常に対応していかなければならない生の声であることを再認識しました。

第3席、金沢市立病院の西千暁さんの発表では、睡眠時無呼吸症候群（SAS）患者の自己管理指導について肥満を解消することが第1の治療となる場合のダイエット成功者の要因分析からの研究でした。効果を実感できるまで比較的長期継続が

必要な治療に関しては患者さまのコンプライアンスが大きく左右するケースが多く、患者さま個々の日常生活の1コマ1コマといった細やかな関わりが必要となることが多いように思います。その点を考慮して今回の要因を念頭におきながら今後の具体的な方法を検討していただきたいと思います。

第4席、山中温泉医療センターの黒田康子さんの発表では、褥瘡対策チーム発足後の活動評価について報告されました。褥瘡対策には必要な体圧分散寝具を使用することが重要となりますが、必要な用具の整備にはコスト面での問題が購入を左右することが多く、今回の報告でも1年間がかりで整備されたようでしたが、患者さまにとって必要とされる用具が少しでも充実できるよう働きかけていくためには今回のような現状を明らかにしていくことはとても大切なことであると感じました。

第5席、森田病院の中美奈子さんの発表では、腓骨神経麻痺予防の具体的な看護について取り組んだ研究でした。チェックリストを用いて観察の充実を図り、外旋防止枕を工夫して作製して神経障害の防止を実践する方法を検討されました。これは、現場においてすぐに活用できるものとして他の施設でも取り入れられるものだと思います。実践に直結した研究として興味深いものでした。

最後になりますが、研究に取り組まれた皆様には本当にご苦労様でした。また、今後のご活躍を心よりお祈りしております。不慣れな座長のもと、会場からの質疑応答や与えられた貴重な時間を十分に引き出すことができなかつたのではと自身反省しておりますが、今回貴重な経験をさせて頂いたことで今後の自身のステップアップにも繋げていきたいと思っております。有難うございました。